

郵政民営化委員会（第213回）議事要旨

日 時：令和2年6月3日（水）15：30～17：40

場 所：WEB会議

出席者：岩田委員長、米澤委員長代理、老川委員、清原委員、三村委員
日本郵政株式会社 谷垣専務執行役、福本常務執行役
日本郵便株式会社小池執行役員

1. 議事

- ・ 「かんぽの宿・通信病院の現状及び今後の取組」（日本郵政株式会社）
- ・ 「EC市場の急速な発展に対する日本郵便の物流事業への対応」（日本郵便株式会社）

2. 委員会での説明・意見等

○ かんぽの宿・通信病院の現状及び今後の取組

【資料213-1～2】

① 説明の概要

- ・ 資料に基づき、日本郵政株式会社からかんぽの宿・通信病院の現状及び今後の取組を説明。

② 委員からの意見等

- ・ かんぽの宿の展望について、インバウンド需要を取り込む余地があると考えていたが、新型コロナウイルス感染症の影響があり、当面は厳しいのではないかと。（⇒ 新型コロナウイルス感染症の影響でインバウンド需要を失い、宿泊業界全体で、国内マーケットの争奪になっている。新型コロナウイルス感染症収束後に何割程度戻ってくるか見通しが立たないが、安全対策にも配慮しながら、今後の運営について検討していきたい。）
- ・ 現在、3病院となった通信病院を、今後、譲渡していくのか、または、専門性を高めて存在感を高めていくのか。（⇒ 通信病院については赤字も続いていることから、今後の経営については、地域で満足いただける、信頼される医療の提供も勘案しつつ、検討していきたい。）
- ・ 通信病院については医師不足との説明あったが、医師・看護師の定着を図るため、具体的にどのような努力をしているのか。（⇒ 医師不足については、研修医・OBへのアプローチを含めて取り組んでいきたい。看護師の定着については、福利厚生充実等に努め、定着を図っていきたい。）
- ・ 今回の新型コロナウイルス感染症への対応では、どのような点が一番苦労したか。（⇒ 医療用マスクや手袋等が不足し、備蓄の必要性を痛感した。施設が老朽化しており負担は大きくなるが、患者や医師・看護師等の医療スタッフへの対応もあるので必要な投資も行っていくべきと考えている。）

○ EC市場の急速な発展に対する日本郵便の物流事業への対応 【資料213-3】

① 説明の概要

- ・ 資料に基づき、日本郵便株式会社から物流事業への対応を説明。

② 委員からの意見等

- ・ 「置き配」については、盗難や事故防止の観点からより良い方法を検討していただきたい。（⇒ 置き配による配達を行う際は、荷送人が了承し、かつ、受取人が希望される場合に行っている。また、置き配による荷物の盗難等に備えた保険について、複数の損害保険会社との話し合いを進めている。
受取手段としては、置き配のほか、宅配ボックスや郵便局、コンビニでの受取りも可能であり、これからも様々な受取りの選択肢を増やしてまいりたい。）
- ・ 物流ソリューションについて、全体のプロセスにおける具体的なサービスメニューはどのようなものか。（⇒ 顧客の要望に基づきカスタマイズを行い、倉庫の中でシステムをどう組むか、

注文を受けてからパッキングや発送に至るまでの作業について、トータルでの提案を行っている。）

- ・ 新型コロナウイルスの影響で荷物が増えているが、日本郵便として、段ボールなど資源ごみ増加などの環境問題についてどのように考えるか。

（⇒ 日本郵便としては、包装資材が増えていることは認識しており、小型の荷姿で差し出していただくような誘導はこれまでも行ってきたところ。また、「レターパックライト」や「スマートレター」といった商品をご利用いただければ、段ボールを用意する必要もない。今後も、環境問題には適切に対応していく必要があると考えている。）

- ・ サービス基盤の強化として、ワンストップ物流ソリューションの展開が言及されているが、紹介されている事例が国内のみに止まっている。トール社の活用などを含めて、国際展開についても伺いたい。

（⇒ 国内、国際を連動した取組については、2018年にトール社と共同設立したJPトールにより海外と国内の営業を連携すべく取組を進めており、トール社の持つ物流網や営業ノウハウ等を上手く活用できるよう、引き続き努力してまいります。）

－以上－

（注）議事要旨は事後修正の可能性があることに御留意ください。また、詳細については追って公表される議事録を御覧ください。